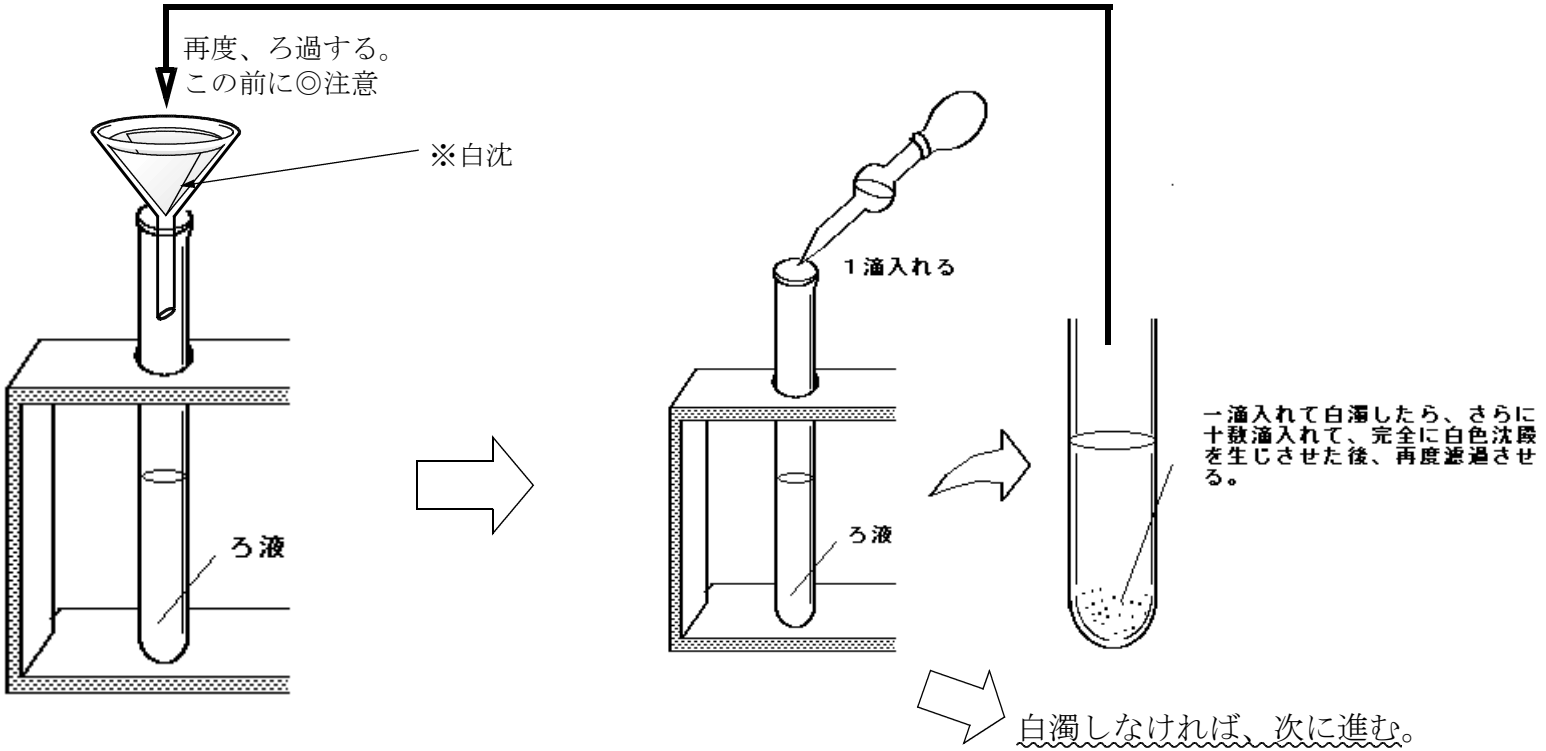
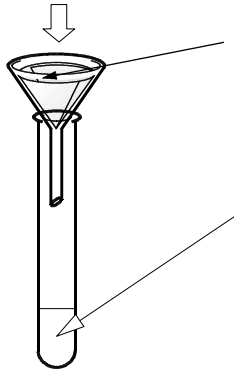
①の操作について

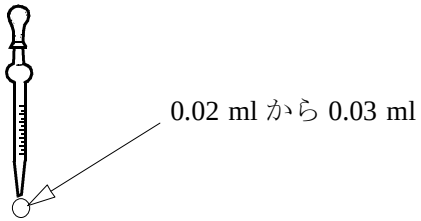


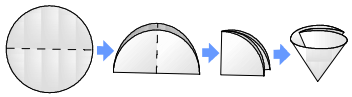
◎注意　　ろ液に、１滴入れて白色のにごりが生じた場合、※白沈には Ag^{+}（あるいは Pb^{2+} ，　あるいは Ag^{+} と Pb^{2+} ）が残留しているので、白色沈殿を純水でよく洗ってから、再度の濾過を行う。これを行わないと、再度の濾過後のろ液に Ag^{+}あるいは Pb^{2+}が混入してしまう。

洗びんの純水を沈殿に少量注いで洗う。ここで生じたろ液は廃液だめに捨てる。（再度の濾過を行ってできるろ液は使いますよ。！）



参考）　駒込ピペットの１滴は、小さい駒込ピペットでは 0.02 ml、中位のものでは 0.03 ml です。





濾(ろ)紙の折り方